

福岡県米麦大豆生産改善速報 第2号

令和元年7月16日
福岡県
福岡県米麦品質改善協会

普通期水稻の生育概況と対策

1. 気象経過 [太宰府アメダス]

	6月20日～7月11日 (21日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	24.5	29.3	21.0	90.1	155.5
前年差(比)	-1.1	-0.5	-1.2	105	20
平年差(比)	±0.0	+0.7	-0.4	121	49

注) 平年は、1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 農林業総合試験場における生育概況

6月20日～7月11日の平均気温は平年並みで、日照時間は21%多く、降水量は51%少なかった。6月10日植「夢つくし」では、草丈は平年より20%低く、茎数は12%少なく、主稈葉数は0.6葉少なかった。6月20日植「元気つくし」では、草丈は平年より13～18%低く、茎数は、平年並～23%少なく、主稈葉数は平年並～0.7葉少なかった。「ヒノヒカリ」では、草丈は9～11%低く、茎数は平年並で、主稈葉数は平年並～0.4葉少なかった。「実りつくし」では、前4年と比べ、草丈は15%低く、茎数は17%少なく、主稈葉数は0.8葉少なかった。

3. 当面の対策

1) 水管理 6月10日植「夢つくし」の出穂期は8月12日頃と予想されるため、中干しを終了し、幼穂形成期以降は水を切らないよう十分にかん水する。

6月中下旬植の早生～中晩生品種は、間断かん水を実施し、有効茎が確保され次第、中干しを開始する。特に「元気つくし」は、稈が伸びると倒伏が懸念されるため、中干しを徹底する。

用水確保が難しいほ場では、水尻のせき板を高さ5cm程度に設定し、雨水をしっかり保つように努め、中干しは実施しないか、弱めにする。

2) 施肥 6月10日植「夢つくし」の穂肥施用時期は7月25日頃で、穂肥は生育診断に基づいて施用する。葉色が低下した状態で高温が続くと白未熟粒が発生しやすくなることから、幼穂形成期頃に肥料切れが見られる場合には、出穂前10日頃までに穂肥を施用する。

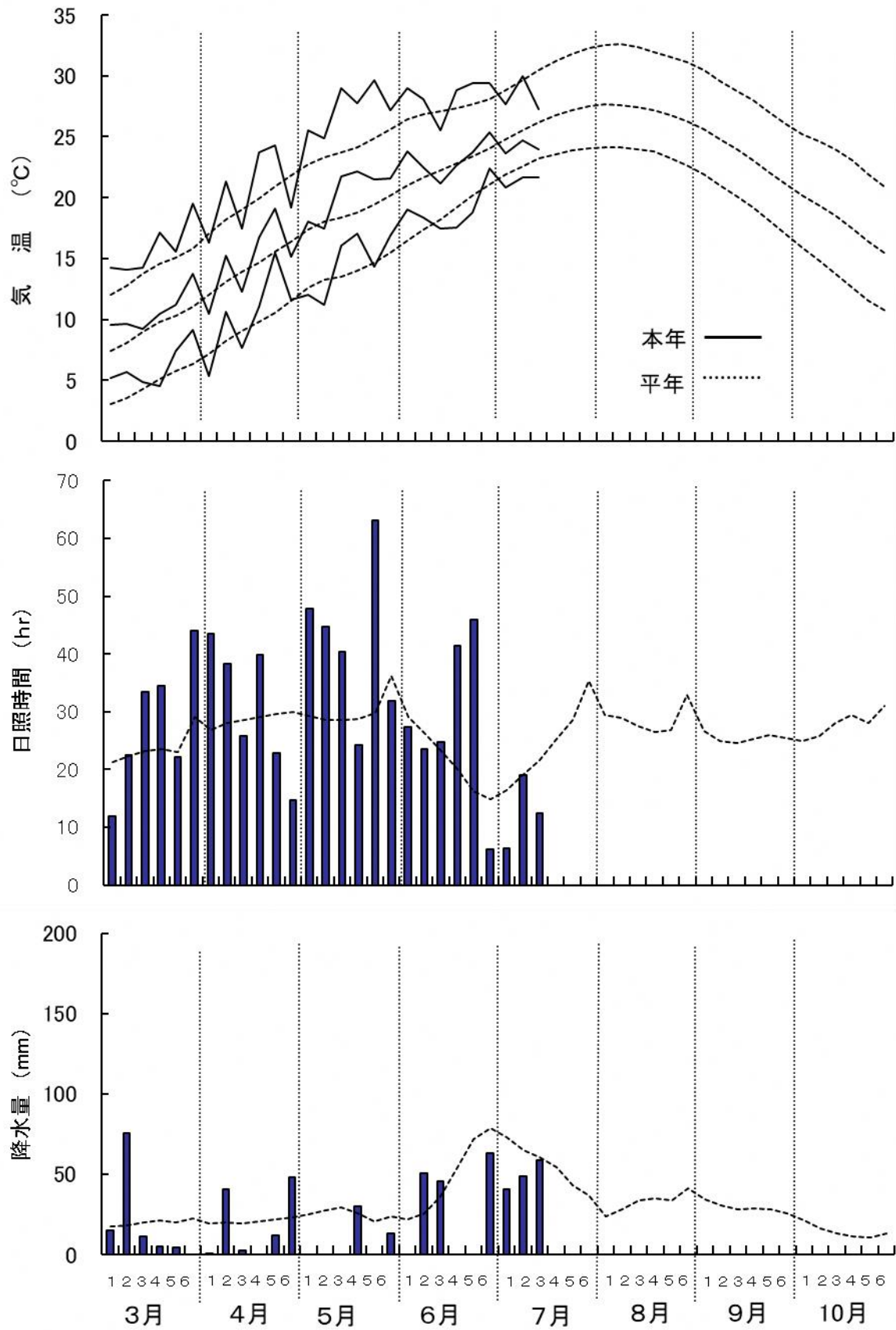
3) 病虫害防除 いもち病やウンカ類の発生に注意する。特に、いもち病の常発地では、必ず初発時に防除を行う。葉いもちが多発した場合は、穂肥の施用量を減量する。

4) 雑草防除 雑草の発生が多いほ場では、中後期処理除草剤を処理する。
除草剤は「普通作雑草防除の手引き」を参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

4. 農林業総合試験場における調査成績

調査場所	移植期	品種	年次	移植期			7月12日		
				苗長 (cm)	苗齢 (L)	乾物重 (mg/本)	草丈 (cm)	m ² 当たり 茎数 (本)	主稈 葉数 (L)
農産部	6/10	夢つくし	本年	11.2	2.6	17.8	50.6	398	9.5
			前年比(差)	90	-0.1	104	71	107	-1.0
			平年比(差)	98	0.0	109	80	88	-0.6
	6/20	元気つくし	本年	11.8	2.1	15.0	40.1	312	8.3
			前年比(差)	91	-0.3	93	92	106	-1.0
			平年比(差)	84	-0.2	99	87	100	0.0
6/20	ヒノヒカリ	本年	10.1	2.5	18.1	35.4	322	8.3	
		前年比(差)	88	-0.5	126	93	106	-1.1	
		平年比(差)	85	-0.2	129	91	98	0.0	
筑後分場	6/20	元気つくし	本年	10.9	2.3	15.6	38	310	7.7
			前年比(差)	76	0.0	88	90	85	-0.9
			平年比(差)	84	-0.3	102	82	77	-0.7
	6/20	ヒノヒカリ	本年	8.8	2.5	17.5	35	411	8.0
			前年比(差)	80	-0.1	93	95	96	-0.5
			平年比(差)	77	-0.3	120	89	97	-0.4
6/20	実りつくし	本年	10.7	2.2	15.7	40	323	7.6	
		前年比(差)	77	0.0	91	95	91	-0.8	
			前4年比(差)	81	0.0	100	85	83	-0.8

注) ①平年値は過去10か年の平均値。
 ②この値は暫定値で、今後変更することがある。



2019年（令和元年）夏作期間の気象（太宰府アメダス）